

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	マーブルキッズ（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 25日		～	令和7年 2月 17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	8名
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 25日		～	令和7年 2月 17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数)	4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 12日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員間の打合せ、支援の振り返りなど全体で共有している。	活動前の打合せ、細かい記録をつけることにより確認をおこなっている。	風通しの良い信頼関係のある職場づくりに努める。
2	保護者との連携がとれている。	送迎時に支援内容を伝え、保護者からの質問にも丁寧に答えるようにしている。	今後も送迎時に話せない場合も、連絡帳を通しての伝達や家族支援を丁寧に行っていく。
3	子どもの状況に応じて、活動プログラムを工夫している。	個別活動と集団活動を組み合わせ、個々の支援計画に合わせプログラムを組んでいる。	職員間で振り返りを行い、集団が苦手な児童に対してもさらに声掛けをしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	室内はバリアフリーなのだが、玄関前に階段がある。スロープの部分もあるので整備をしたい。	スロープの出来上がりが途中になっていて、使える状態になっていない。現在は車椅子の方はいない。	職員の介助で安全第一に事故がないようにしている。早めにスロープの対策をとり、車椅子対応も出来るようにしていく。
2	非常災害時の訓練に参加できていない利用者がある。	週1回の利用の場合、参加できないことがある。	施設内で施設全体でなくキッズだけの防災訓練を行えるよう計画を立てていく。
3	父母の会など保護者同士の交流の場がない。	平日働く保護者の方が増えていて、保育園からの預かりも多くなっている。	事業ごとではなく、福祉社会全体の行事を催すことにより、保護者が顔を合わせる機会を作っている。